

**UNITE
FOR
GOOD**

HIGASHI OSAKA MIDORI R.C

CLUB WEEKLY

国際ロータリー第2660地区
東大阪みどりロータリークラブ
創立 1998年9月24日
会長 北井 孝彦
幹事 田村 嘉宏
会報委員長 阪田 克英

2025-10-09 (第1118回)

今週のプログラム

《10月09日(木) 例会 KKR ホテ大阪5階「瑞宝」》

◎ 卓話 「米山月間に因んで」
井上善博君

♪本日の歌 「奉仕の理想」

次回の予定

《10月23日(木) 例会 KKR ホテ大阪2階「琴」》

◎ 東大阪西 RCとの合同例会

前回の出席率

《10月02日(木) 例会》

会員数 14名 (内出席免除者数 1名)
本日の出席者数 6名 (内出席免除者数 0名)
本日の出席率 46.2%

幹事報告

幹事 田村嘉宏君

- ◎本日例会前に、田中ガバナー補佐様と松尾ガバナー補佐エレクト様をお迎えしてクラブ協議会を行いました。
引き続き例会にご参加有難うございます。
- ◎次週(10/16)の例会は公休日です。
- ◎10/23(木)は、東大阪西 RCとの合同例会です。
今回は例会場が KKR ホテル大阪 2 階「琴」となります。開始時間は同じ 18 時半からとなります。
アルコール提供となります。
- ◎明日(10/10)、IM 第4組会長幹事会(金輪会)に会長幹事が出席してまいります。

《10月度定例理事会議事録》

日 時 2025年10月2日(木) 例会後

場 所 KKR ホテル大阪 5 階「瑞宝」

出席者 北井、井上、山村、政岡、田村

◎10・11月行事予定

- 10月 2 日(木) 例会・理事会
 - 10月 9 日(木) ガバナー補佐とのクラブ協議会・例会
 - 10月 16 日(木) 公休日
 - 10月 23 日(木) 東大阪西 RCとの合同例会 (KKR)
 - 10月 30 日(木) 炉辺談話
 - 11月 6 日(木) 例会・理事会
 - 11月 7 日(金) フードドライブ (~8日)
 - 11月 13 日(木) 例会
 - 11月 20 日(木) 公休日
 - 11月 27 日(木) 例会
 - 11月 29 日(土) 地区大会 (ホテル阪急インターナショナル)
- ◎会長挨拶
東輪会合同例会本当に有難うございました。
活動計画書、予算を確定します。

例会場:KKRホテル大阪 Tel:06-6941-1122 例会日時:毎週木曜日 午後6時30分

事務所:〒631-0001 奈良市北登美ヶ丘3-11-30

Tel:0742-55-4869 Fax:0742-51-1067 E-mail midorirc1126@gmail.com

◎議案

① 10月・11月行事予定 上記参照

② ガバナー補佐とのクラブ協議会について

17時30分開始 集合 17時15分

進行役 幹事

国内担当 説明 代理として井上さん

会員交流 阪田さん 國際担当 谷口さん

③ 東大阪西 RCとの話し合いについて

東大阪西ロータリーとの合同例会は10月23日に当クラブ主催で開催予定です。今回は各テーブルに分かれて話し合いを行い、合併の前提も含めて「場所」「会費」「日程」「クラブ名」などを議題とします。食事はいつも通り弁当にし、少しグレードアップして一人当たり5000円の会費を設定します。アルコールも提供する予定で、徴収方法はまとめて対応する方針です。詳細は会長・幹事が調整し、必要に応じて柔軟に対応します。4テーブル程度として5人から7人くらい。リーダーは会長・幹事・バスト会長

④ 炉辺談話について

10月30日(木) KKRホテルにて6階「清芳庵」

⑤ 東輪会合同例会の総括

今回の例会は全体的に好評でしたが、料理の提供が遅かったなど課題もありました。担当者とホテル間の段取りが不十分だった部分があり、当日の準備や連絡体制を改善する必要があります。また、参加者の到着時間に差があったため、今後は早めの集合と確認を徹底します。

懇親会では、一人ひとりが前で話す参加型の企画が有意義だと感じましたが、時間配分には注意が必要です。さらに、料理やデザートの残量管理やアナウンスも今後改善したい点です。総じて、次回は事前準備と役割分担の明確化を心掛けるべきだと考えます。

⑥ 子ども食堂支援について

今年もお米やお菓子などを提供する予定です。当初は11月7日・8日に配布を計画していましたが、農協の都合でお米は12月初旬に変更します。お米以外は例年通り11月7日・8日に七か所で配布、お米は16か所への配布を予定しています。各場所へ取りに来てもらう形にする可能性があります。費用は5キロ袋×5・16か所分で約30万円を見込

んでいます。お菓子の価格も高騰しているため、配布内容を検討します。参加者から一人5000円ずつ集め、予算は約10万円です。協力団体には声をかける予定です。PR活動も行います。

⑦ 今年度の予算について説明します。収入はニコニコ箱(50万円予定)、各種お祝い金・誕生日祝い(各8万円)、会費(14名分で41万円)、新入会員の年会費・入会金、ビジターカー会費などを合わせ、合計で約635万円です。前年度繰越69万5千円も加わり、総額は約700万円となります。

支出としては、年会費98万円、クラブ会議費10万円、委員会登録料40万円、地区行事参加料20万円、その他分担金や例会費関係で合計約230万円、担当委員会費65万円、備品・人件費等で260万円程度となる見込みです。全支出は約555万円で、今年度はおよそ100万円の余剰が出る見込みです。周年積立金やイベント費の計上状況によって今後調整します。

⑧ その他

○合併に関する話題ですが、西さんは資金が豊富なので、井上さんには多くの資金を持ち込まなくて良いと言われました。味岡基金についても、使い道が限られているため有効的に活用するのが難しい状況です。台湾の世界会議など特定の用途でのみ使うことになる見込みです。合併前に予算を使い切ることはできないので、持参金のような形で準備しておく必要があります。予算についてメンバー全員が把握しているわけではなく、まだ詳しく説明していません。今年は料金が上がりましたが、備品費など計画中の事業も含め、必要に応じて予算を増やす予定です。今後、積み立てた資金の活用方法について検討します。

○クリスマス会について

イベント出し物については山村さんからサックスの演奏、阪田さんから手品の提案があった。どちらも予算を確認し検討する。

○ロータリー旗の新調については検討する。

議事録作成 幹事

三つの幸せ

幸せには三つあると言われます。一つ目の幸せは、してもらう幸せ。
二つ目は、自分でできる幸せ。三つ目は、して差しあげる幸せです。
三つの幸せの中でも、最も大きな幸せが、三つ目のして差し上げる幸せです。
ロータリーの「よいことをしよう」こそ、三つ目の幸せです。

会長の時間 (10/2)

会長 北井孝彦君

皆さん、こんばんは。来週の月曜日 10月 6 日は、中秋の名月です。

- ・中秋とは、旧暦の 8月 15 日を指す。旧暦では 7~9 月を秋としているため、8月 15 日はちょうど秋の真ん中となります。
- ・中秋の名月は、現在では 9月から 10月となります。

今年、2025 年の中秋の名月は 10月 6 日の月曜日となります。

- ・ちなみに 2022 年は 9月 10 日、2023 年は 9月 29 日、2024 年は 9月 17 日と幅があります。これは、中秋の名月が旧暦をもとに決められているからです。

「中秋の名月」とは、太陰太陽暦の 8月 15 日の夜に見える月のことをいいます。

- ・因みに「十五夜」旧暦 15 日の夜すべてをさします。
- ・名月必ずしも満月ならず（月の満ち欠けの周期が変化するため）今年の中秋の名月は 10月 6 日、満月は明くる日 7 日です。
- ・中秋の名月の過ごし方は、地域によって異なりますが、以下の通りです。
- ・月見団子、芋類、豆類、月餅をお供えします。

秋は作物の収穫期。豊作への祈りや感謝、供えたあとの団子を食べることで健康と幸福を得られると考えられているからです。

15 個の団子を大皿にうず高く盛る。これは一番上の団子が靈界に通じると信じられていましたからです。

- ・サトイモやサツマイモの収穫時期に当たることから、「芋名月」とも呼ばれます。
- ・関西では、関東のような丸い月見団子ではなく、先を少し尖らせた餅をこしあんで包んだサトイモのような形の団子が一般的です。
- ・ススキを飾ります。 古来日本では、背の高い稻穂は神様が降り立つ「依り代（よりしろ）」といわれ、形が似ているススキを稻穂の代わりに供えたことが風習の起源で

す。またススキには邪気を払う力があると考えられており、中秋の名月のススキには、災いなどから収穫物を守り、次の年の豊作を願うという意味があります。

・月の神様（月読命）

壱岐島には「月讀神社」があり、そこから月神を分霊し祀ったのが、京都「松尾大社」の摂社である「月讀神社」。松尾大社では、毎年中秋の名月に観月祭が開催されている。月見饅頭や樽酒が無料でふるまわれています。

卓話抄録(10/2)

「わずか 15 歳で処刑された「東国一の美女」

駒姫の最期と父・最上義光の苦悩

山村忠弘君

出羽国の最上義光（もがみよしあき）の娘で「東国一の美少女」と評判だったのが駒姫。その噂は閑白・豊臣秀次の耳にも届き駒姫を側室に迎えたいと望んだ秀次は義光に上京を促します。義光はこれに反対しますが、権力者である秀次の強い要請を断り切れず、「姫が 15 歳になるまでは」と条件付きで受け入れました。（『奥羽永慶軍記』）

そして、1595 年に駒姫はついに京へと旅立ちます。秀次切腹事件による関係者の処分

しかし、その矢先に豊臣秀次切腹事件が起こります。

この事件は、実子・秀頼に家督を継がせたいという秀吉の意向により、秀次に「謀反の疑い」がかけられたことが原因とするのが一般的です。しかし、事件の詳細な経緯については今も定説が確立されておらず、研究者の間で様々な説が提起されています。

ところが悲劇はこれだけでは終わりませんでした。事件後に秀吉は、秀次の家族や家臣たちを含めた関係者を三条河原で処刑。その中には、将来側室となる予定だった駒姫も「関係者」として処刑の対象となつたのです。

駒姫の死は、当時の豊臣秀吉がいかに厳しく処罰を行っていたか、そしてその影響がいかに広範に

及んでいたかを象徴する事件となりました。

最上義光の助命嘆願

駒姫処刑に際し父・最上義光は、秀吉に娘の助命嘆願を行っていました。

『太閤記』によれば、その訴えが淀殿を通して秀吉の心を動かし「尼にするならば許す」と許可が出たともされます。しかし、早馬が三条河原に到着したのは処刑直後で、わずか百メートルほどの差で駒姫の命を救うことが出来ませんでした。

その後、駒姫の母・大崎殿は、病に伏して亡くなり、義光も大きな落胆を味わいます。

駒姫の辞世とその後の最上家

駒姫は処刑前に辞世の歌を残しています。

「罪を斬る 弥陀の剣に かかる身の なにか五つの
障りあるべき」

おおまかな意味は「慈悲深い阿弥陀如来の刃にかかるのだから、自分には罪などあるはずがない」という、仏の力にすがる無念と潔さが伝わります。

これが15歳の少女が詠んだのかと思うと胸が打たれます。

その後、豊臣家に不信を抱いた義光は徳川家康と接近し、関ヶ原の戦いでは東軍の家康方として上杉軍と戦う「出羽合戦」で戦功を挙げ、57万石の大名へと加増されました。

戦国の世に翻弄された運命だったとはいえ、ほんの少し「駒姫の上京が遅れていたら」あるいは「早馬がもう少し早く着いていたら」辞世の歌を詠むことなく、別的人生を歩んでいたかもしれません。

そんな「もしも」を思わずにはいられない、戦国時代のひとつの悲しい姫の物語でした。



【東輪会合同例会】

講 話

「能楽を見て、聞いて、体験しよう！！」

能楽観世流 シテ方 寺澤幸祐様

〃 寺澤拓海様

能楽小鼓方 大倉流 久田陽春子様

能楽は、よく「眠たくなる」「敷居が高い」などのご意見も聞いたりしますが、現在200曲ぐらいあるとされ、最初から最後まで静かなものもあれば、中には戦ったり、倒れたり、蜘蛛の糸が出てくるような凄く動きの激しいものもあります。そのため、初めて見るならどの演目がいいのか、見る前に少しストーリーを勉強してから見て頂くと、よりわかりやすい芸能です。能楽は、約700年前に観阿弥・世阿弥が作り、途切れずに続いてきました。この「途切れずに」というのがポイントで、世界中に能楽より古い芸能は多々ありますが、どの芸能も一旦中断しておりまして、途切れずに続いているのは、この世界遺産に認定されている能楽だけなのです。皆様は、海外との交流もたくさんあるかと思いますけれども、是非日本の能楽という素晴らしい芸能があるということを、自慢して頂きたいと思います。今日は、その能楽について、搔い摘んでお話をさせて頂きます。



能楽といえば、「能面」や「装束」を付けて舞台に出るイメージだと思いますが、人々の生活に大変密着したスタイルで、日常でも楽しむことができます。例えば、謡を一人で歌うだけでも、能が成り立ちます。後ほど、皆様に謡って頂く「高砂」という曲には、平和で元気に過ごせますようにという願いが込められています。そして、シテ方は、舞

三つの幸せ

幸せには三つあると言われます。一つ目の幸せは、してもらう幸せ。
二つ目は、自分でできる幸せ。三つ目は、して差しあげる幸せです。
三つの幸せの中でも、最も大きな幸せが、三つ目のして差し上げる幸せです。
ロータリーの「よいことをしよう」こそ、三つ目の幸せです。

つたり謡つたりしながら演目を進めていく中で、能面を使います。元々、世阿弥がいた時代は、男が役者として演技をしておりましたので、女性を演じる際には必ず女性の能面を使います。また、角が生えた「般若」という能面は、性別が女性です。古い日本の考え方では、女性の鬼にしか角は生えず、男の鬼は、角がないというのが通説です。般若は、2本の角が生え、怒りの中に悲しみも見えるという豊かな感情表現を持つ能面になります。また、16歳の少年を表現した能面もあり、これは須磨の一ノ谷の戦いで散った平敦盛の顔を写したものといわれております。「松虫」という曲がありますが、平敦盛の幽霊が出てくるお話でこの能面を使ったりします。「平太」という能面は源氏の武将、例えば源義経などを演じる時に使います。能面を付けていると、非常に視界が狭くなります。目の穴からは、ほとんど上しか見えず、口や鼻の穴も使いながら、能舞台にある4本の柱を舞台から落ちないための命綱として演じています。

※能面体験



また、能面を付けない場合もあります。それは、生きている男など、そのままの姿で演じられる時は能面を使わず、「直面」で演技をします。例えば、歌舞伎で有名な「勧進帳」の弁慶を能で演じる時は、素顔のままで演じることになります。今日は、この勧進帳の元となった「安宅」という曲の仕舞を見ていただきます。

※仕舞「安宅」

能楽は、言葉が難しいので、頭の中で場面を想像しながら見て頂かないといけません。でも、「詞章」で文章を見て頂き、少し予習をして頂くと、物語が楽しめると思います。ただ、能楽は物語を楽しむだけではなく、祝福や信仰の芸能であり、どの曲にも共通するテーマとして、天下泰平、五穀豊穣、国土安穏など、皆

様が幸せであるように、国が豊かであるようにということが描かれています。そして、人間の苦悩や喜びも描かれているのですが、その物語を彩るのが楽器です。能楽の「囃子方」の楽器は、笛、小鼓、大鼓、太鼓の四つだけと決まっております。お雛様の「五人囃子」は、それぞれ笛、小鼓、大鼓、太鼓を持ち、もう一人は謡なんですね。座る順番も決まっており、謡は口から声を出し、笛は唇に、小鼓は肩に、大鼓は腰に乗せ、太鼓は床に置き、音が出す場所が低くなる順番になっています。楽器は、笛以外は全て鼓の仲間になります。小鼓は、左手で持つて、右手で打ちます。4種類の音があり、5本の指で打ち、左手の締め具合で音を調整して操作する世界的にも珍しい楽器です。そして、下から上に打つ演奏法の楽器は、世界中を探してもないそうです。ここで、皆様にも打っていただきたいのですが、能楽の舞台には指揮者がいません。掛け声や空間を共有することで、間を一緒に取っています。

※小鼓の体験



今度は、皆様と一緒に 700 年続いている曲を謡いたいと思います。今から謡うのは、「高砂」の一節である「街謡」をさせて頂きます。「待謡」とは、「相生の松」という松があり、播州高砂と摂津住吉という所は離れているのですが、そこにある松は心がずっと通い合うということで、おめでたいことの象徴とされています。この部分は、結婚式などでも謡われます。

「高砂や この浦船に帆を上げて
この浦船に帆を上げて 月もろ共に出汐の
波の淡路の島影や 遠く鳴尾の沖こえて
はや住の江につきにけり はや住の江につきにけり」

三つの幸せ

幸せには三つあると言われます。一つ目の幸せは、してもらう幸せ。
二つ目は、自分でできる幸せ。三つ目は、して差しあげる幸せです。
三つの幸せの中でも、最も大きな幸せが、三つ目のして差し上げる幸せです。
ロータリーの「よいことをしよう」こそ、三つ目の幸せです。

「高砂や この浦船に帆を上げて」の「高砂」は、播州高砂のことでのことから「浦船に帆を上げて」とありますので、「新しい船を作りましたので、ここから出航しましょう」ということです。この船に乗人は、熊本の阿蘇神宮の神主がいるので、新しい船を出すには一番いいタイミングであるということです。二回文章が重ねられているところは、大事な部分であるということです。「月もろ共に」とは、月と一緒にということなので、夜に出航するという意味です。「波の淡路の島影や」とは、「淡路島の島影が見えてきました」ということですね。「遠く鳴尾の沖こえて」とは、鳴尾とは今でいう阪神の甲子園球場のある場所あたりになります。そこに、一本松がありまして、それを灯台の代わりの目印として、瀬戸内海を西から東へ進んで住の江に着きます。「住の江」とは、今でいう住吉大社があるところで、地名にもなっている「住の江」の「江」は、海のことです。ですから、瀬戸内海を船で進んだところ、住吉大社は、ほとんど海の近くにあったということですね。この文章も二回繰り返しますから、大切なことなのでしょう。では、何故この曲が結婚式で謡われるのかということです。全然、おめでたい文章になっていませんよね。これは、高砂から住の江に着いたという「道中の謡」ですが、結婚式では「二人の門出」という意味合いで謡われ、ちゃんと目的地である住の江に着きましたということから、「添い遂げる」という意味で、結婚式で謡われています。これが、「待謡」であり、では誰を待っているのかというと、後半部分に登場してきます「住吉明神」という神様です。その神様が空から降臨し、天下泰平、五穀豊穣、国土安穏を祈り、神前を舞うというところに繋がっていきます。今日は、これを皆様と謡ってていきたいと思います。まず一度、皆様も姿勢を正してもらってよろしいでしょうか。先程ご紹介した楽器は、自主調節しなければいけませんが、謡は体が楽器になりますので、腰をしっかりと前に引き、おへそを突き出す感じで、背骨を一つひとつ伸ばして、肩のてっぺんが空に向いている状態にします。そして、腹式呼吸を使いますけれど、簡単です。鼻から息を吸って、その意気をおへその辺りに持っていくイメージです。そのおへその辺りを「丹田」と言いますが、そこに息を入れてみてください。鼻から深呼吸をする要領です。では、私が一度歌いますから、皆様も一人で謡ってい

るつもりで謡ってみてください。周りに誰かがいると思わず、息をしっかりと掴み取って頂き、気をしっかりと整えてください。先程も申しましたように、住吉の神様が空から降りてこられて、皆様が幸せになるという願いを込めて謡い、舞います。皆様も、祈りを込めて、謡ってみてください。

※「高砂」の謡を体験



本日は、皆様の貴重なお時間を頂き、能楽のお話をさせて頂くことができました。ありがとうございました。皆様にも体験して頂く事で、能楽を見てみようかな、やってみたいなと思われる方がいらっしゃれば、とても嬉しいです。そして、能楽堂も、是非足をお運び頂ければ、大変嬉しく思います。本日は、どうもありがとうございました。

